

コンピュータの中の人工“国”会

光辻克馬

今回、提出したモデル(以下、人工国会)は、コンピュータの中に、国会のミニチュア版を作ってみようという試みである。モデルの中に含めたエージェントは、国会を具体的に構成している「議員」、選挙を通じて議員を選出する多数の「選挙民」、議員によって立ち上げられ、活動する「政党」である。「議員」と「選挙民」と「政党」という三種類のエージェントの相互作用で、人工国会は動く。太陽光さえ当てておけば、安定して維持される金魚鉢内のミニ生態系のように、電源さえ与えておけば動き続けるようなコンピュータの中の人工国会を作成した。

この簡素な民主主義のモデルは、多くの側面を捨象している。選挙区は1つしかないし、議員は信念に基いて、公約を変えることはない。収賄事件もなく、全てのエージェントが政治的信念に基いて行動している。選挙民と議員と政党の政治的選好は、ズレながらも連動しつつ動いていく。しかし、選挙民と議員と政党の相互作用で、それぞれの動向が影響しあうメカニズムをよく表現できている。選挙民の選好の動向(世論の動向)によって、選ばれる議員の選好が決まり、議員間の相互作用の中で、政党が生まれてくる。そして、その政党の選好によって、選挙民の選好は左右される。一人の議員の当落や入党/脱党で、政党のかかげる選好が大きく変わり、それによって世論や他の議員の動向も大きく変化するのである。

